

補助金申請システムの検討状況について

2018年11月27日
経済産業省

補助金申請システム（jGrants）プロジェクトの基本方針

- 「**補助金の執行をゼロから変える**」ことをテーマにプロジェクトを進行。
- BPR（Business Process Re-engineering）を大前提とし、jGrantsは課題解決の一つのツールとして執行上の共通部分を取り出し、**シンプルな機能を具備したシステム**とする。

国民・事業者の課題

- 申請項目、添付書類が多い
- 申請が難しい、実施後の手続きも煩雑
- 必要な補助金がわからない etc.



行政・執行団体の課題

- 紙のやりとり、複雑な審査など人手がかかる
- 本人確認に時間がかかる
- 効果があったのかわからない etc.



国民・事業者および行政・執行団体双方のユーザー視点に立って

①運用・執行方法の見直し、②システム化による見直し、③その他の工夫による見直しなどに整理し、改善を検討。

**BPRを行なった上で標準化されたプロセスでなければ
jGrantsを活用した使いやすいサービスは実現できない。**

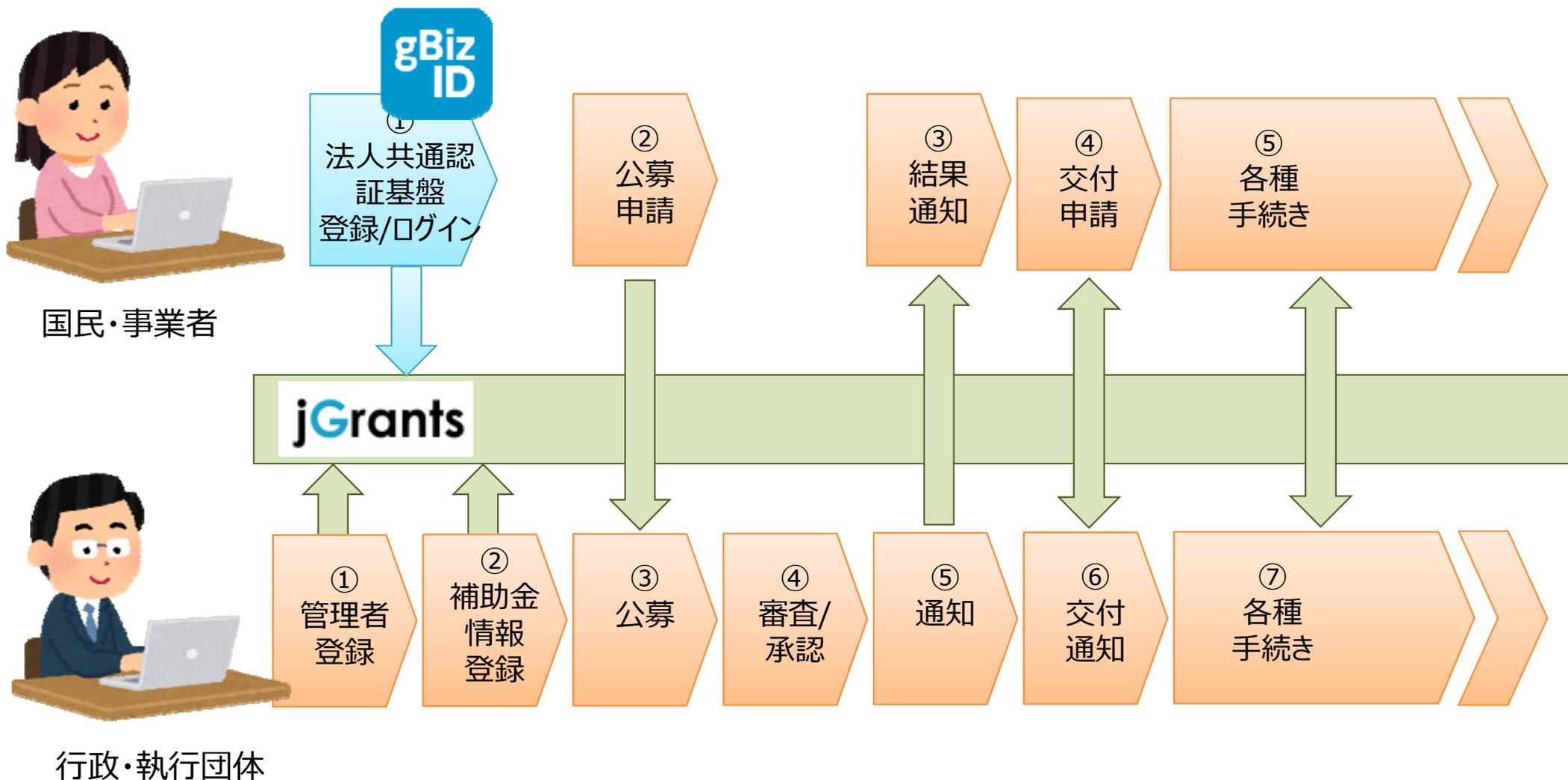
現状の代表的な補助金フロー

- 紙や押印のフローが多数存在し非効率な状況。また補助金毎に業務フローやシステムが別々となっている。



jGrantsの全体構造

- 補助金適正化法で定められた手続きをベースに、シンプルな機能を提供する
- 国民・事業者向け機能（フロント機能）と行政・執行団体向け機能（バックエンド機能）を提供



事業者側から見た補助金申請システムイメージと機能（フロントエンド）

法人共通認証基盤
(ビジネスID)



接続

補助金申請ポータル
(jGrants)

jGrants

法人共通認証基盤
登録/ログイン

補助金選択・
ステータス管理

申請入力

関連手続



国民・事業者

- ID/Pass等で認証（法人共通認証基盤を使うサービス（今後拡大予定）と同じIDでログイン可能）
- 個人事業主でも登録可

- 登録されている複数補助金一覧から選択可能（ワンストップ）
- 手続きにおける進捗確認がマイページで確認可能
- ★ 手続きに関する行政からの通知も確認可能

- jGrants上にある複数の補助金は、共通のフォームで申請可能
- 一度入力したデータは前回情報からプレ入力（ワンズオンリー）
- ウェブフォームでのエラーチェックによる記載ミス防止
- フォームにならないものはファイルで添付可能

- ★ 問い合わせ等のやり取りもシステムから直接職員と行える
- ★ 事業報告、実績報告等、補助金利用後の手続きまでシステム上で実施可能とする予定
- ☆ 自分の行なった過去の手続履歴等も確認可能とすることを今後検討

- 2019年9月のリリースに向けプロトタイプ版で開発中の機能
- ★ 2020年4月に向け実装予定
- ☆ 将来実装予定

行政側から見た補助金申請システムイメージと機能（バックエンド）



行政・執行団体

- 2019年9月のリリースに向け
プロトタイプ版で開発中の機能
- ★ 2020年4月に向け実装予定
- ☆ 将来実装予定

- 管理者のアカウントが
複数発行可能
- **外部の執行団体**にも
アカウント付与可能
- **ID/Pass**で管理者は
自分の補助金管理に
ログイン

- 補助金名、概要、要
綱、募集期間等登録
- **補助金申請に共通する
データ項目等を標準化**することで、申請
フォーム作成の手間を
削減
- **補助金固有の申請
項目の設定**や書類添
付も可能

- 申請者を**一覧で管理**、
条件で**検索等**を行える
- 紙に打ち出さず**画面上
で申請内容を確認しや
すいインターフェース**
- 申請者の**進捗ステータ
ス管理**が可能
- ★ 追加質問や不備によ
る返却の通知等を、**シ
ステムを通じて実施**

- ☆ 外部審査委員による審
査について、インターネッ
ト上で依頼・入力

- ☆ 申請データは、
補助金以外の
業務でも**活用**、
**政策効果の検
証等に活用可能**
な形で保存

スケジュール（案）

経済
産業省

BPR/開発

2019年
3月末

テスト利用・改修

2019年
9月

部分利用

2020年
4月以降

- プロトタイプ版リリース
（補助金適化法で定められた手続きをベースとしたシンプルなシステム）

- 本番システムリリース、
経産省の主たる中小
企業向け補助金での
利用
- 2020年度に適用する
他の補助金選定

- 他の補助金へ
展開

他省庁・
自治体

2018年
12月中

事業準備

2019年
4月

BPR実施

2019年
9月

システム対応検討

2020年
4月以降

- 内閣府によるFS対象と
する補助金候補の確定

- FS開始
- 補助金業務の実施プ
ロセスの確認・見直し
等から進める

- 経産省の本番システム
仕様にアクセス可能、
FS以外の補助金も検
討可能に

- FS選定補助金のシステム
活用スタート
- ※ FS対象以外でも検討の上、
利用可能

開発中のシステムのポイント

1. サービスはクラウドベースを想定

行政情報システムのクラウド化（クラウド・バイ・デフォルト）方針及び今後のデータ連携等を考慮し、基本的にはクラウド環境でデータの保存や管理も行い、インターネット環境で全てが完結することを想定

（参考）政府情報システムにおけるクラウドサービスの利用に関わる基本方針（平成30年6月7日CIO連絡会議）

2. 現時点では間接補助金をベースに検討

現時点では、官庁会計システム（ADAMSⅡ）や一元的文書管理システム等の府省共通システムとの連携が発生しない間接補助金を想定して開発を進めている。今後、直接補助金の検討を進め、これらシステムとの接続も併せて整理。

※自治体の場合は、総合行政ネットワーク（LGWAN）との接続整理が別途必要

3. 申請件数の多い補助金で検証を実施

より申請件数の多い補助金の方が費用対効果が大きくなるため、件数が多い中小企業向け補助金申請をモデルケースとし、BPRでプロセスを簡素化した上でシステム化を検討。

上記状況を踏まえ、IT室等と連携して他省庁等展開のF S調査を実施

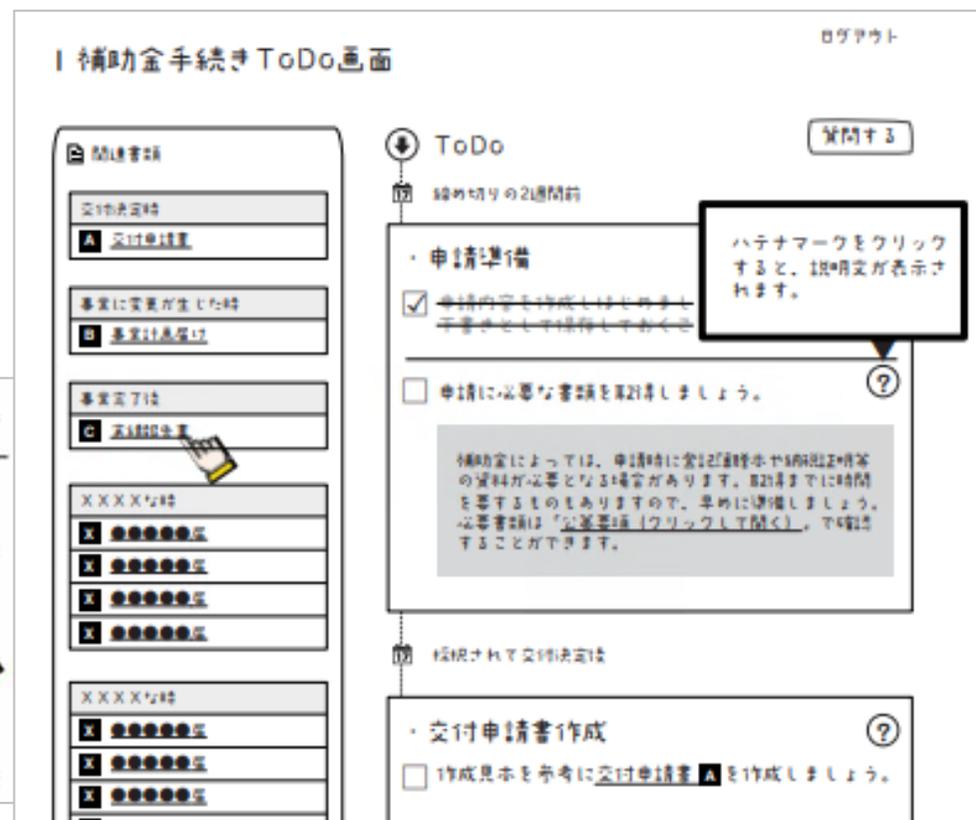
(参考1) jGrantsの機能概要

jGrantsはアジャイル開発手法にて開発中であるため、機能実装は今後変更になる可能性あり。

主な機能		内容
フロント機能 <国民・事業者向け>	認証	「GビジネスID」と連携し、gBizIDにてログインを可能とする。
	マイページ	現在実施中の事業、ToDo画面などを用意する予定
	各種手続き	公募、交付などの手続きを実施できる
	問い合わせ	事務局と直接やりとりができる機能



gBizIDにてログイン
※画面はイメージ



(参考2) jGrantsの機能概要

jGrantsはアジャイル開発手法にて開発中であるため、機能実装は今後変更になる可能性あり。

主な機能		内容
バックエンド機能 <行政・事務局向け>	認証	事務局の登録、ログイン機能
	補助金管理	補助金の概要、公募要領、交付要領などを管理する機能
	事業管理	各申請者の管理、jGrantsが定めるシンプルなフローに従い承認やステータスの更新ができる機能
	問い合わせ	事業者と直接やりとりができる機能
	通知	事業者に対し一斉通知ができる機能
	EBPMとの連携	申請データを標準的な項目で収集することにより今後分析・施策立案に活用予定

事業

事業名 事業者名 事業の状態

ID	事業名	事業者名	事業の状態
14	法人認証基盤の開発		事業実施中
6	補助金申請サービスの開発		事業実施中

- 交付申請中
- 事業実施中
- 事業完了
- 事業取り下げ済
- 事業取り消し済 (第10条)
- 事業取り消し済 (第17条)
- 不採択

(参考3) jGrantsの展望

DXプラットフォームを活用したワンスオンリーの推進

法人データ交換基盤の導入によりさまざまな法人情報と接続し、活用する。今後データの配置などについては要検討。

他省庁、自治体の利用

経産省をモデルケースに、他省庁・自治体の手続きにも活用する。

民間サービスとのデータ連携（エコシステムの形成）

jGrantsの参照/更新APIを公開し、国民・事業者が普段使っているサイトからシームレスに補助金申請ができることを目指す。

